

2024年08月27日作成

第1.0版

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ  
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の試料・情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの試料・情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

小腸腫瘍の臨床病理学的検討

1. 対象となる患者さん

対象期間中に当院で小腸腫瘍 に対して手術による治療、検査を受けられた患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 消化器・総合外科 吉川千尋

3. 研究の目的と意義

小腸腫瘍の発生頻度は低く、消化管腫瘍全体の5%と以下と非常に稀な疾患です。そのため、未だ不明な点が多いものの、大まかには小腸腫瘍の2/3が悪性腫瘍とされ、そのほとんどを癌、カルチノイド、悪性リンパ腫、消化管間質腫瘍が占めています。腹痛や出血、狭窄といった症状を契機に発見されることがほとんどで早期診断は困難な腫瘍です。悪性腫瘍は手術による切除が治療の主体をなりますが、確定診断を目的として手術を行うこともあります。術式は大まかには小腸部分切除術やバイパス術になりますが、腫瘍の大きさと発生部位により規定され、多様な術式が考えられます。小腸腫瘍の予後は大腸腫瘍と比較して不良なものが多く、当院にて手術による治療や検査を施行した小腸腫瘍の症例における臨床所見、診断、治療法、予後について検討します。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、小腸腫瘍の臨床病理学的特徴、診断、治療法、予後を検討します。

## 5. 使用する試料・情報

診療情報：年齢，性別，身長，体重，BMI，既往歴，術前併存疾患，術前治療の有無，術前治療の内容，術前CT，MRI画像所見，内視鏡所見，注腸所見，腫瘍肉眼型，腫瘍占拠部位、腫瘍径，術式（腹腔鏡，開腹，リンパ節郭清の有無），手術時間，出血量，組織型，臨牀的・病理学的壁進達度，臨牀的・病理学的リンパ節転移，病理学的浸潤増殖様式，脈管侵襲，簇出，神経侵襲，薬物，放射線の組織学的効果判定，術後排便状況、術後合併症（縫合不全等），術後観察期間，術後化学療法の有無，化学療法内容、遺伝子検査

## 6. 試料・情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

## 7. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2027年7月31日

## 8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

## 9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 消化器・総合外科 医員 吉川 千尋

〒634-8522

奈良県橿原市四条町 840 番地

TEL : 0744-22-3051 対応時間 8時30分～17時

E-mail : c.yoshikawa@naramed-u.ac.jp